

# ※図中の縮尺と異なります。

この地図の作成に当たっては、国土院院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。(承認番号 平27情使、第49-GISMAP35424号)

## 想定津波浸水域図・津波痕跡図

### Tsunami Flooded Area・Tsunami Trace Area

#### 静岡県第4次地震被害想定 想定津波浸水域図(レベル2の津波の最大浸水深図)

##### 【留意事項】

- 本資料は、静岡県が第4次地震被害想定(平成25年6月、平成27年1月)で想定した最大クラスの津波(南海トラフ巨大地震及び相模トラフ沿いの最大クラスの地震による津波)が次のような条件下において発生したと仮定した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです(南海トラフ巨大地震の6つのケースと相模トラフ沿いの最大クラスの地震の3つのケースの浸水域図を重ね合わせたものです)。
  - ・コンクリート製の海岸堤防や河川堤防は地震動により破壊されると仮定しています。
  - ・土で築造された海岸堤防や河川堤防は地震動により高さが元の25%まで沈下し、津波が乗り越えたと同時に無くなると仮定しています。
- ※上記の仮定条件は、今後の防災・減災対策を検討する上で最悪の事態を想定しておく必要があるために設定したものであり、実際の地震において堤防が全て壊れるということではありません。県では、堤防の耐震化や液状化対策とともに、仮に津波が乗り越えたとしても粘り強く効果を発揮する構造への改良を進めていきます。
- 参考に、静岡県が第3次地震被害想定(平成13年5月)で推定した安政東海地震の推定浸水域を表示しています。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したのですが、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。過去の地震津波においては、本資料で示した浸水域より内陸部まで津波が到達している記録が残っている場所もあり、本資料で浸水しないとされた地域においても津波の危険性が全く無いということではありません。
- 本資料に示される浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 浸水域や浸水深は、地面の凹凸や構造物の影響等により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 本津波浸水想定では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。
- 津波高は小数点以下第2位(cm単位)を四捨五入し、小数点以下第1位を切り上げています。
- この図は津波防災地域づくり法第8条に基づく津波浸水想定図ではありません。

凡	例
	最大浸水深 20m 以上
	最大浸水深 10m ~ 20m未満
	最大浸水深 5m ~ 10m未満
	最大浸水深 3m ~ 5m未満
	最大浸水深 2m ~ 3m未満
	最大浸水深 1m ~ 2m未満
	最大浸水深 0.3m ~ 1m未満
	最大浸水深 0.01m ~ 0.3m未満
	安政東海地震推定浸水域
	想定津波浸水域レベル1
	沖合約30m地点●における津波高※エリア最大値ではありません
	津波痕跡箇所

